

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(松阪あゆみ特別支援学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		一人ひとりの能力・特性に応じた教育を推進し、児童生徒が自立し、地域社会の一員として主体的で豊かに生きる力を育成します。 【教育目標】 自立と共生 ～地域で豊かに生きる子どもを育てます～
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	4H(健やかな体・思いやる心・まなび活かす力・ゆたかな希望) ○体力を高め、心身ともに健やかな体で、生き生きとたくましく生きる力 ○自分を認め、他者を思いやる心を身に付け、共に支え合いながら生きる力 ○様々な学びで身につけた知識や技能、社会性などを活かしながら生きる力 ○ゆたかな希望を心に抱き、自己実現を目指し未来を切り開きながら生きる力
	ありたい教職員の姿	4W(教職員の取組)を実践し、児童生徒・保護者・地域から信頼される教員として行動する。 ・HEARTWORK(心に寄り添う指導) ・TEAMWORK(確かな協働) ・FOOTWORK(率先した行動) ・NETWORK(地域との連携)

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要望・期待	<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全で楽しい学校生活を送りたい。 ・自らの持つ力を引き出してほしい。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番の理解者として、子どもの相談相手や自己実現に向けての支援協力者であってほしい。 ・一人ひとりの障がいを理解しそれぞれに応じた教育を展開してほしい。 ・卒業後の社会参加に必要な力を身に付けさせてほしい。 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな学校であるか知りたい。 <p><交流相手校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい理解や、人権感覚の育成につなげたい。 <p><各関係機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特別支援教育全般の牽引的役割を果たしてほしい。 <p><実習先・就労先></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や働く意欲などを身に付けさせてほしい。 	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校への理解を深めてほしい。 <p><交流相手校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の児童生徒のことを理解してほしい。 <p><各関係機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理解を深めてほしい。 <p><実習先・就労先></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の就労場所や居場所を提供してほしい。

(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスミーティングや全体研修等は、教職員全員が参加することで、意識、学びの向上につながるため、計画的に進めていくことが大切である。 ・個別の教育システムなどの効果的な活用をさらに推進させ、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた指導、支援の実現に取り組んでいく必要がある。 ・災害時等の緊急事態に対して、事業継続計画(Business Continuity Planning)をふまえて、避難訓練、災害伝言ダイヤル等の取組を進めていくと有効的である。 ・教職員が相談しあえる職場環境や、気づきを大切にしながら関係性を構築していくために、あゆみチェック等を活用し、組織として取り組める体制をさらに推進していくことが大切である。
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が同時に授業を実施しているため、お互いの授業を参観する形態の研修を実施することは困難である。引き続き、授業改善につながる効果的な研修のあり方を検討していく必要がある。 ・個別の教育システムなどの効果的な活用を軸に、児童生徒一人ひとりの実態に応じた指導・支援をチームとして取り組める体制を構築していく。 ・児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、起こりうる様々な危機を想定し、主体的・組織的に動く教職員集団になるよう体制を整える必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の「カフェトコトコ」等を通じて、地域の学校への理解を促進し、地域とともに児童生徒を育てていく環境を整えていく必要がある。 ・研修会やコンプライアンスミーティングにおいては、全教職員参加のもと互いに学び合える環境を構築していく。 ・組織のあり方や業務の見直しを行い、教職員が互いに助け合うことができる職場環境、関係性を築きあげていく。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育システム」を活用して児童生徒一人ひとりの「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を充実させ、児童生徒にとってより効果的な支援を行う。 2. 安全・安心な学校生活 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の命と安全を守る学習や訓練を継続して行い、安全・安心な学校生活を保障する。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育を牽引する役割 <ul style="list-style-type: none"> ・地域における特別支援学校としてのセンター的役割を果たす。 ・人権意識を高く持ち、地域と深くかかわるなかで情報を発信する。 2. 信頼される学校 <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの向上に努め、保護者、地域等との信頼関係を築く。 3. 働きやすい職場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・運営組織のなかで全教職員が自分の役割を十分果たす。 ・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実した毎日を過ごせるよう、情報共有する時間や環境を整備するとともに、効率よい会議運営を行うなど、働きやすい職場づくりを目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教育活動の充実	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。学校教育目標達成に向けて、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を行う。</p> <p>○児童生徒の実態把握を行い、持てる力や可能性を伸ばす支援を行う。</p> <p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、児童生徒にとってより効果的な支援を行う。</p> <p>○小学部・中学部・高等部それぞれの教員による小グループでの授業研究を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・小グループでの授業研究を行う。 年3回</p> <p>・「個に応じた指導・支援の工夫」についての実践を授業公開する。 授業公開年1回</p> <p>【成果指標】</p> <p>・保護者アンケートで、「個別の教育システム」等に関して、家庭訪問などの機会に担任と十分話し合いができていると答えた割合 90%以上</p> <p>(2)地域で豊かに暮らすために学校間交流と居住地校交流を行い、子どもたちが互いを理解し尊重しあう機会を設け社会性を養う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・事前に活動内容や日程等について打ち合わせを行い、直接的・間接的な交流を継続して行う。 毎回</p> <p>・学校間交流の実施 小学部3回、中学部1回、高等部1回</p> <p>【成果指標】</p> <p>・居住地校交流を希望する児童生徒全員の実施 100%</p>	<p>・年3回(5/27、6/17、9/16)</p> <p>・授業公開1回(11/21)</p> <p>・(5月実施)94.0% (2月実施)94.0%</p> <p>・居住地校交流については長期休業を利用し、打ち合わせを実施</p> <p>・小学部:3回→2回(2・3回目を合同開催) 11/27、12/18(12/4の交流分を併せて実施) 徳和小</p> <p>・中学部:6/23飯高中</p> <p>・高等部:7/10昴学園高</p> <p>・直接・間接交流にて91%(当日中止等含む)</p>	◎
2. 安全・安心な学校生活	<p>(3)自分及び他者の命と存在を大切に、それらを守るために、自ら行動する力を養う学習を行う。また、いじめや問題行動の未然防止、早期発見・解決に努める。</p>		

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育カリキュラムに基づいた学習を実施する。 年間を通じて ・性に関する学習を実施する。 各学部1回以上 ・児童生徒が教員やスクールカウンセラーに相談しやすい環境をつくる。 機会を捉えて <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンクシャツデーのメッセージ参加 220人以上 <p>(4)危機発生時等における児童生徒の命と安全を守るための学習及び訓練を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震・火災等の避難訓練の実施 4回 ・引き渡し訓練等保護者と連携した訓練の実施 2回 ・交通安全に関する講習の実施 各学部年間1回以上 ・教職員対象の救急救命講習の実施 1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害伝言ダイヤル体験活用度 各回60%以上 ・保護者アンケートで、安心して学校に送り出していると回答した割合 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて実施 ・10/2小学部5・6年生 10/2中学部2年生 10/28中学部3年生 高等部全学年 ・各教科等にて実施 ・機会を捉えて ・2月実施 222枚 ・5/13避難訓練二次避難 ・7/1下校時避難訓練 (部活・スクールバス) ・9/16起震車 ・10/17避難訓練 児童生徒非通知 一次避難のみ ・12/1下校時避難訓練 (部活・スクールバス) ・1/16避難訓練 児童生徒非通知 一次避難のみ 2回目 ・6/6学校引渡し訓練 12/1スクールバス引渡し訓練 ・小学部11/25 中学部5/14 高等部5/14 ・7/18 ・5/15実施60%以上、 1/15実施60%以上 ・(5月実施)98.4% (2月実施)98.4% 	
--	---	---	--

改善課題

1 教育活動の充実

- 「個別の教育システム」を活用して、児童生徒の実態把握・目標設定・評価を行った。今後は、引き続きマニュアルの見直しを進め、より活用しやすいシステムへと改善していく必要がある。
- 「個別の教育システム」を活用した「個に応じた指導・支援の工夫」については、効果的な指導・支援につなげるため、より充実した研修を計画的に実施していく必要がある。
- 居住地校交流および学校間交流について
居住地校交流では、児童生徒どうしにこれまでの関わりがあることから、互いに再会を喜ぶ様子が見られた。今後も、直接交流および間接交流の両面から交流の充実を図っていく。
学校間交流では、レクリエーション活動や作業学習などを通して、交流を深めることができた。一方で、

本校の児童生徒数に比して交流先の児童生徒数が多いことから、交流の時間や内容など、より効果的な交流の在り方について、相手校とともに検討していく必要がある。

2 安全・安心な学校生活

- 人権教育カリキュラムに基づき、児童生徒会を中心としたいじめ防止運動に取り組んだ。また、各学部において系統立てた性に関する学習を実施した。今後も、児童生徒が主体的に参加できる活動を通して、自他を認め合う学びの機会を継続的に確保していく必要がある。
- 予告なしの避難訓練等を実施し、緊急時に落ち着いて避難行動ができるよう、訓練や事前・事後指導に取り組んだ。また、各学部において交通安全教室を開催した。引き続き、多様な訓練や講演会を重ねることで、自らの命を守る行動が確実に身につくよう、指導の充実を図る必要がある。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 特別支援教育を牽引する役割	(1)地域支援として巡回相談、電話相談、体験研修、夏季講座等を実施するとともに、小・中・高等学校の教員がより相談しやすく、個々のケースに対応した支援を行うことが可能な相談形態を定着させる。 【活動指標】 ・「あゆみなんでも相談会」の実施 申し込みに応じて ・実践体験研修 申し込みに応じて ・夏季講座 1回 【成果指標】 ・「あゆみなんでも相談会」や、体験研修や夏期講座等に参加した教職員の満足度 80%以上	・申し込み3回4人 ・11人(12回) ・1回(8/18)	◎
	(2)地域において本校の教育活動への理解と協力を仰ぎ、地域のなかで児童生徒が豊かに生きるための支援につなげる。 【活動指標】 ・百五銀行、JR多気駅での作品展示 3回 【成果指標】 ・「トコトコネットワーク」新規加入 個人3件以上、企業等団体1組織以上	・百五銀行 5・10月 多気駅 8月 ・個人11件 企業団体0組	
2. 信頼される学校	(3)特別支援学校に勤務する教職員として、児童生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童生徒及び保護者、関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨む。 【活動指標】 ・教職員意識調査「あゆみチェック」の結果を教職員全員で共有し、課題について検討し改善を図る。 年2回 ・体罰・交通事故等への啓発を朝の打ち合わせ時に行う。	・年2回 (チェック5・11月実施、 検討6・11月) ・機会を捉えて	

<p>3. 働きやすい職場づくり</p>	<p>・コンプライアンスミーティングの実施 年1回 【成果指標】 ・「あゆみチェック」の結果においてコンプライアンスを常に意識している教職員の割合 100%</p> <p>(4)児童生徒、保護者、関係機関、地域の人々等との信頼関係を築き、児童生徒へのよりよい支援につなげる。 【活動指標】 ○学校の取組について、ホームページで情報発信する。ホームページの更新 年12回以上</p> <p>【成果指標】 ・保護者アンケートで、気軽に相談できる雰囲気がある、と回答した割合 90%以上 ・保護者アンケートで、担任と連絡帳や「すぐーる」などを通じて、意思疎通が図られている、と回答した割合 90%以上</p> <p>(5)教職員一人ひとりが心身ともに健康で、充実感をもちながら教育活動を行うことができる環境をつくる。また、教員間で積極的に対話を行い、風通しのよい職場にする。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上</p> <p>【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 7時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数 20日以上 ・教職員アンケートで、意見や質問を出しやすい職場である、と回答した割合 90%以上 ・教職員アンケートで、働きやすいと感じる職場である、と回答した割合 90%以上</p>	<p>・年1回(8/5)</p> <p>・(5月実施)100% (11月実施)100%</p> <p>・学校全体4回 小学部11回 中学部 8回 高等部 8回</p> <p>・(5月実施)93.4% (2月実施)93.4% ・(5月実施)95.6% (2月実施)95.6%</p> <p>・95.9%</p> <p>・100%</p> <p>・0人</p> <p>・7人</p> <p>・4.1時間 ・25.7日 ・(5月実施)94.5% (11月実施)85.5% ・(5月実施)86.3% (11月実施)81.9%</p>	
改善課題			
<p>1 特別支援教育を牽引する役割 ○ オンラインを活用した「あゆみなんでも相談会」は、参加者から好評を得た。今後も継続して実施していく。さらに次年度は、松阪工業高校高校通級指導のサポート校として連携を図りながら、相談・支援体制のセンター的役割を担うことが求められる。</p> <p>2 信頼される学校 ○ 教職員アンケートの結果に基づき、分析と改善課題を整理したうえで、夏季休業中にコンプライアンス・ミーティングを実施した。オフサイト・ミーティング後に行ったことで、教職員間の意見交換がしやすい雰</p>			

団気が生まれ、事例共有や他者の意見を通して自らを振り返る機会となった。

3 働きやすい職場づくり

- 教職員の欠員に伴う業務負担の増加により、時間外在校時間が45時間を超えた教職員が7名となった。また、教職員アンケートにおいても、働きやすさや職場の雰囲気に関する満足度が80%台にとどまった。今後は、一層の業務精選を進め、働きやすい職場環境づくりに取り組む必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">○ 保護者アンケートでは、「気軽に相談できる雰囲気があるか」の項目で、「あまりない・ない」と回答した保護者が3.4%いた。教員が忙しそうにしていると相談しづらい雰囲気になってしまうため、この点について改善が望まれる。○ 小学部・中学部・高等部のつながりが、より強くなることが望ましい。○ 進路に関する情報など、必要なタイミングで適切に提供されるとよい。○ わずかな成長にも気づけることが大切である。児童生徒の特性や発達段階に応じた適切な指導・支援について、今後も継続して取り組んでほしい。○ 人員不足で多忙な状況であり、教職員アンケートの満足度の低下につながっている。意見を出し合い・悩みを共有できる職場環境づくりが重要である。また、意見や課題を吸いあげる仕組みづくりを継続することが望まれる。○ 世間では、教職員の不祥事に対する厳しい意見も寄せられている。教職員が精神的なゆとりを持てるような体制が整うことが望まれる。また、機会を捉えてコンプライアンス研修を実施していくとよい。○ 夏季休業中に実施したコンプライアンス・ミーティングの参加率が100%であったことは評価できる。また、オフサイト・ミーティングをとおして教職員間が意見交換できたのもよかった。今後も継続して実施してほしい。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ol style="list-style-type: none">1 教育活動の充実<ul style="list-style-type: none">○ 「個別の教育システム」のマニュアルの見直しを進め、より活用しやすいシステムへと改善する。○ 「個別の教育システム」を活用した「個に応じた指導・支援の工夫」により効果的な指導・支援につなげるため、より充実した研修を計画的に実施する。○ 居住地校交流や学校間交流において、交流の時間や内容など、より効果的な交流の在り方について、相手校とともに検討する。2 安全・安心な学校生活<ul style="list-style-type: none">○ 児童生徒が主体的に参加できる活動をとおして、自他を認め合う機会を継続的に確保する。○ 多様な訓練等を重ねることで、自らの命を守る行動が確実にとれるよう指導を充実させる。
学校運営についての改善策	<ol style="list-style-type: none">1 特別支援教育を牽引する役割<ul style="list-style-type: none">○ オンラインを活用した「あゆみなんでも相談会」の充実を図る。また、松阪工業高校通級指導のサポート校として、センター的役割を担う。2 信頼される学校<ul style="list-style-type: none">○ 夏季休業中に、オフサイト・ミーティング及びコンプライアンス・ミーティングを実施する。3 働きやすい職場づくり<ul style="list-style-type: none">○ 一層の業務精選を進め、働きやすい職場環境づくりに取り組む。